



# 「北白川だより」 学校評価 臨時号

令和6年2月16日  
京都市立北白川小学校  
校長 藤林 弘之

## 令和5年度 学校教育目標

### 『学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子』

～目標の実現に向け努力する意欲・態度と問題解決能力を培う～

平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、冬休み後の学校評価にご協力いただき、ありがとうございます。学校評価は児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つです。そして、この学校評価の結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。

なお、以下の考察では、A群とB群で「できている」、C群とD群で「できていない」と大きく2つに分けて分析しています。

## [学習面]

		A	B	C	D
児童	① がくしゅうのめあてがたっせいできている。	47.5%	46.0%	5.4%	1.2%
	② せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かながえている。	54.9%	39.4%	5.1%	0.6%
	③ じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかながえをひょうげんしている。	41.8%	37.9%	17.0%	3.3%
	④ よんだり、かいたり、けいさんしたりするちからがみについている。	57.9%	34.3%	6.3%	1.5%
	⑤ いえでじぶんからしゅくだいがくしゅうをしている。	56.4%	34.0%	8.4%	1.2%
	⑥ すすんでくしよをしている。	53.4%	26.6%	14.0%	6.0%
	⑦ すすんでうんどうをしている。	60.6%	24.2%	10.7%	4.5%
保護者	① 我が子は、学校で学んだことを身に付けている。	52.3%	42.7%	4.6%	0.4%
	② 我が子は、人の話をしっかりと聞いて考えることができている。	38.9%	53.1%	7.1%	0.8%
	③ 我が子は、進んで自分の考えを話すことができている。	39.7%	50.6%	9.2%	0.4%
	④ 我が子は、基礎的な学力(読む・書く・計算する)が見に付いている。	54.0%	38.9%	5.9%	1.3%
	⑤ 我が子は、自分から家庭学習に取り組むことができている。	38.9%	39.3%	19.2%	2.5%
	⑥ 我が家では、本に親しむことができる環境を整えている。	43.5%	36.0%	18.0%	2.5%
	⑦ 我が子は、進んで運動に取り組んでいる。	47.3%	32.2%	18.0%	2.5%
教職員	① 確かな学力が身に付くように授業を工夫して行っている。	47.4%	52.6%	0.0%	0.0%
	② 友だちや先生の話しっかりと聞いて考える習慣をつけるように取り組んでいる。	68.4%	26.3%	5.3%	0.0%
	③ 授業中、子ども達が進んで自分の考えを伝えるような授業づくりを心掛けている。	63.2%	36.8%	0.0%	0.0%
	④ 基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付くように取り組んでいる。	68.4%	31.6%	0.0%	0.0%
	⑤ 家庭学習の習慣が定着するような働きかけを行っている。	47.4%	36.8%	15.8%	0.0%
	⑥ 読書の習慣が定着するような働きかけを行っている。	68.4%	10.5%	21.1%	0.0%
	⑦ 進んで運動できるように工夫したり、声をかけたりしている。	42.1%	52.6%	5.3%	0.0%

※本号では1月に行いました学校評価アンケートの結果をお知らせします。前半は＜学習面＞、後半は＜生活面＞を載せています。表のAは「よくできている」Bは「だいたいできている」Cは「あまりできていない」Dは「できていない」を示しています。

### 【①「がくしゅうのめあてがたっせいできている。」の項目より】

「できている（A群+B群）」と答えた児童は、前期から微増の93.5%という高い結果でした。A群が4.7ポイント減り、B群が6.3ポイント増えたところを見ると、全体としては達成してはいるが、少しずつ勉強も難しくなっているのではないかと考えます。その中でも、90%を超える値が出ていることから、子どもたちが一生懸命に頑張ってきたことはもちろん、日々のご家庭での声かけやサポートが土台となり、教職員が学校を学びの場としてより良くなるように取り組んできた成果であることが伺えます。

学年別で見ると、低学年ではA群が多いものの、高学年になるほどA群が減る傾向にあります。学年が上がるにつれて、メタ認知（客観的に理解すること）もできるようになり、できていないことにも気づくようになってきているのかもしれません。

質問①に限らず、この「できていない」ことに気づくことが、実は、主体的な学びには不可欠で、「知らないこと」や「できないこと」が程よく存在する状態が知的好奇心を生み出すというような考えがあります。大切なことは、まず、「気づく」こと、そして、それを解決する環境やスキル、チャンス等があることだと思います。

しかし、失敗を恐れ、失敗しないように過ごしたり、大人が失敗させないようにしすぎた環境で過ごしたりすると、もしかして、先を知っている（つもりの）私たち大人が、子どもたちの意欲や主体性を奪ってしまっていることもあるのかもしれません。

大人も子どもも、「できない」や「知らない」からこそ成長や成功があるので、まず、私たちが、「できない」「知らない」ことを大切に、失敗から学べる環境やチャンスをつくって、子どもたちの成長を見守っていきたいと考えます。

### 【⑤「いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。」の項目より】

「できている」は、児童が90.4%、保護者が78.2%でした。一見、保護者の回答が低いように感じますが、実は、2年前に比べると、児童も保護者も約10ポイントずつ上がっています。私たち大人にとっても、自分自身の行動を変えることは簡単ではありませんが、子どもたちを自分から学習ができるようにご家庭で根気強く、お子さまに向き合っていたいただいていることが伺えます。

特に、今回、6年生が前期より15.5%も向上していました。6年生は、今年度3学期から、日々の宿題について、担任から出す宿題ではなく、自分で計画を立てて自分に合った宿題をするようにしています。そこに、子どもたちは、実感として自分の主体的な姿を感じているのだと思います。主体的に行動することで、深い思考や質の向上等が期待できるため、1つの成果として捉えることができます。一方で、「したい学習」＝「すべき学習」とは限らないため、学習の定着や学力向上に繋がるかどうかは、見ていく必要があります。6年間通して、子どもたちが主体的に学ぶ姿も意識して取り組んでいきたいと考えます。

※保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、次回の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。

[生活面]

		A	B	C	D
児童	① じぶんからすすんであいさつをしている。	63.0%	31.3%	4.8%	0.9%
	② いえやがっこうのルールをまもっている。	44.8%	50.4%	3.9%	0.9%
	③ そうじやかたづけをきちんとしている。	51.3%	38.5%	7.5%	2.7%
	④ こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。	43.9%	35.5%	16.4%	4.2%
	⑤ だれにたいしてもいねいなことばではなしている。	29.0%	49.9%	20.0%	1.2%
	⑥ にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	40.6%	43.0%	12.8%	3.6%
	⑦ じぶんにはがんばっていることがある。	79.1%	16.7%	3.9%	0.3%
保護者	① 我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。	52.7%	43.9%	3.3%	0.0%
	② 我が家では、家や学校のルールを守るように働きかけている。	54.4%	43.1%	2.1%	0.4%
	③ 我が家では、掃除や身の回りのかたづけを自分でするようにしている。	20.9%	57.7%	19.7%	1.7%
	④ 我が家では、子どもの話をしっかり聴くようにしている。	46.0%	48.5%	5.4%	0.0%
	⑤ 我が家では、丁寧な言葉づかいで話すように心がけている。	28.5%	61.1%	10.0%	0.4%
	⑥ 我が家では、苦手なことにも努力する姿勢を大切にしている。	38.9%	51.9%	9.2%	0.0%
	⑦ 我が家では、子どもの頑張りを認め、伝えるようにしている。	68.2%	28.9%	2.9%	0.0%
教職員	① 自分から進んで挨拶ができるように働きかけている。	68.4%	31.6%	0.0%	0.0%
	② 家や学校のルールを守る意識を高めるように取り組んでいる。	78.9%	21.1%	0.0%	0.0%
	③ 自分から進んで掃除や身の回りのかたづけをするように働きかけ、自らも実践している。	68.4%	26.3%	5.3%	0.0%
	④ 子ども達に向き合い、しっかりと話を聴くようにしている。	84.2%	10.5%	5.3%	0.0%
	⑤ 誰に対しても丁寧な言葉遣いで話すよう指導するとともに、自らも実践している。	78.9%	15.8%	5.3%	0.0%
	⑥ 子ども達が、苦手なことにも前向きに取り組めるような手立てを、常に意識して実践している。	57.9%	42.1%	0.0%	0.0%
	⑦ 子どもの頑張りを認め、積極的に伝えるようにしている。	84.2%	15.8%	0.0%	0.0%
	⑧ 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている。	73.7%	26.3%	0.0%	0.0%

【②「そうじやかたづけをきちんとしている。」の項目より】

「できている」と回答した児童が 89.8%で、保護者の回答と約 10 ポイントのギャップが見られました。

実際、学校での様子を見ていても、そうじを頑張っている子は多いように感じます。しかし、そうじをしているようでしていない子もまだまだいて、ほうきをもっていることでそうじをしている、ごみが集まっていなくてもとにかく掃いていたらそうじをしていると感じているかもしれません。

学校だよりも何度か書いてはいますが、世の中が便利になることで、自分がしなくても誰かがしてくれていて、そこに目を向けなくなっていくことがあります。一旦、ごみに気づいても、何度かまたいで通ると、ごみは意識から薄れていきます。是非、ご家庭でも、自分のことは自分でできるように引き続き、声かけをよろしく願いいたします。

【⑦「じぶんにはがんばっていることがある。」の項目より】

「できている」が、前期の 94.6%から、今回は 95.8%とほぼかわらないものの、A 群が 7.5 ポイント上昇していました。学年別で見ても、どの学年も特に差はなく、子どもたちが毎日を頑張っていることが伺えます。

頑張っていることがあり、またそれを周囲から認められると、自己肯定感が上がり、意欲もより高まると考えます。ご家庭では、我が子の成長を日々感じておられるため、頑張っていることの理解や応援はされていると思います。この結果を受けて、学校でも、子どもたちはどの子も一生懸命に頑張っているということを改めて確認し、見守っていきたいと考えます。

○今回のアンケート自由記述欄には、保護者の皆さんに「上記の項目を振り返って、ご感想をいただけると有り難いです。」について書いていただきました。以下に、一部を抜粋・集約して紹介いたします。

【良かったこと】

- ・学校全体の雰囲気が落ち着いているので、上記の項目に取り組みやすいと感じます。ありがとうございます。
- ・クラスでもポジティブな声掛け、雰囲気があるのか、できることは自信をもって積極的に、できないことや苦手なことも前向きに取り組む姿が見られます。
- ・親が子供の手助けをする機会も徐々に少なくなり、子供自身で解決出来るが増えてきました。今後も、子供が自主的に考えて行動出来るよう、家族で試行錯誤しながら取り組んでいきたいと思ひます。
- ・学習面、生活態度面ともに、学級でよく見て声かけや宿題へのコメント記入で対応していただひており、感謝しています。
- ・家庭でもより良く声かけ、見守りしていきたくひ。
- ・学校での集団生活で、学習や人間関係等、学びの多い日々を送れていると感じます。
- ・私のにこにこ大作戦、くつ並べのお手伝ひは進んでやってくれていて感心しています。
- ・最終学年になり、中学へ向けて、子供本人の意志で色んな活動に取り組むようになりました。自主的な姿勢を尊重して、見守ってやりたくひと思ひています。
- ・6年の3学期に入り、家庭学習を学校から出された宿題という形ではなく、中学校に向けて、自分で計画を立て自分で振り返り、また次に生かすという形になり、素晴らしい取組に感謝しております。今、子どもに付けてほしい力であるとともに今後の人生においてとても大切な要素と時間を与えて下さいました。また親子で学びのあり方を考える機会を得ることができ感謝しております。

【頑張りたいこと】

- ・環境を整えても、子どものやる気がなかったり、子どものやる気が出るような声かけができなかったりで、なかなか難しいと感じました。
- ・日常生活で身の回りの事が自発的にできるように親もサポートできたくひと思ひます。
- ・挨拶は恥ずかしさがあるのか小さい声になってしまうようなのでまた声かけしていきたくひ。
- ・苦手なことから逃げる癖がつひていて、何度話をしたか分からないぐらいです。不得意なことに向かうには皆さんどう取り組まれているか教えて欲しいです。
- ・やる気にムラが見られるので、生活のリズムをさらに整えていきたくひです。
- ・スポーツの習ひ事に時間と体力を取られ、家庭学習が二の次になっている状況です。
- ・思春期に差し掛かり、複雑さが出てきたようにも思ひます。干渉しすぎず、見守りたくひです。
- ・こどもにはつひつひ親の願望を投影して求めてしまひますが、まず親が自分のために行動してないと、こどもに伝えにくいと感じます。
- ・うちはまず親から努力しなければ…と反省です。
- ・子どもの話をなかなか聞いてあげられないので、こちらも心にゆとりを持って接したいと思ひます。”
- ・丁寧に話そうとしながら、怒鳴ってしまうことがあり、反省です。
- ・高学年になって出来なくなったことがたくさんあるので試行錯誤中です。
- ・本を読むことを増やそうと思ひます。読書の習慣を身につけて、楽しむと同時に多くを学んで欲しいです。

【願ひ・その他】

- ・3年生は友達関係が複雑になってきているようですが、担任の先生や親には知られないようにする知恵もつひています。深掘りをして追求したりするべきだなと感じることが多いです。先生方も同じ思ひでいてもらえるとありがたいです。
- ・我が家では、苦手を克服することよりも好きなことや得意なことに積極的に取り組むことに重きをおひています。自分に自信をつけて中学へ進学してほしいです。
- ・彼らが能動的に考え学べる機会を今よりも増やしていただけるとありがたいです。他の人と違うことが生きていく上で大事な支え合える要素だということを集団の中でわかつてもらえたくひと思ひます。
- ・学習は本人がやりたくひと思ひた時に、一気にやればいいかと思うので、知的好奇心を大切にしたいと言う家庭のスタンスです。

毎日、目の前のことに一生懸命になり、身長の変化に気づかないように、意外と日々の変化に気づかないこともあるかと思ひます。そのため、機会をつくって児童・保護者・教職員、それぞれの立場で振り返ることは、長期的な視点でPDCAサイクルを回すために大切であると考えます。

今回、残念ながら、保護者の回答数が2割程度減少しました。Formsでの回答は、目の前にプリントがあるわけではないので、後に回すと忘れやすいというデメリットがあります。しかし、紙面での回答は、折れや汚れ、未記入等、読み込みエラーが非常に多く、集計に時間がかかっていたため、Formsでの回答が大幅な働き方改革に繋がっています。ご理解いただき、今後ともご協力をお願いいたします。